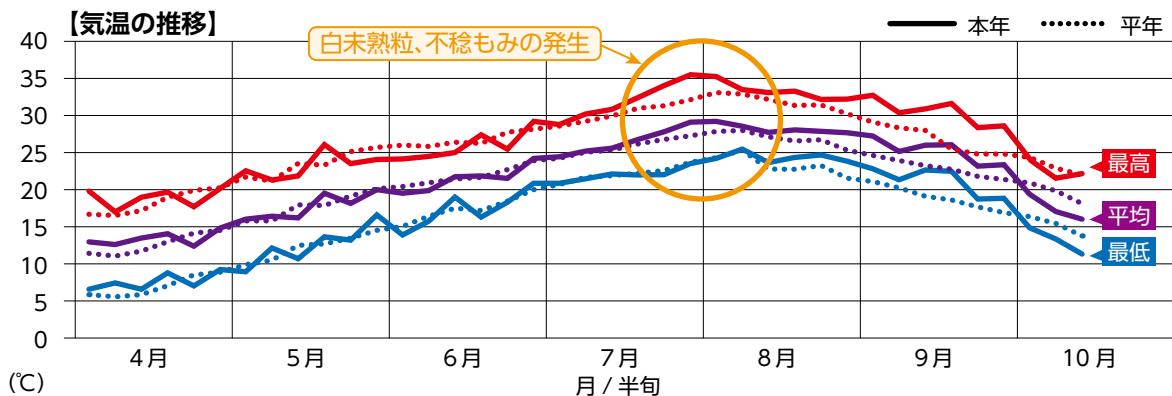
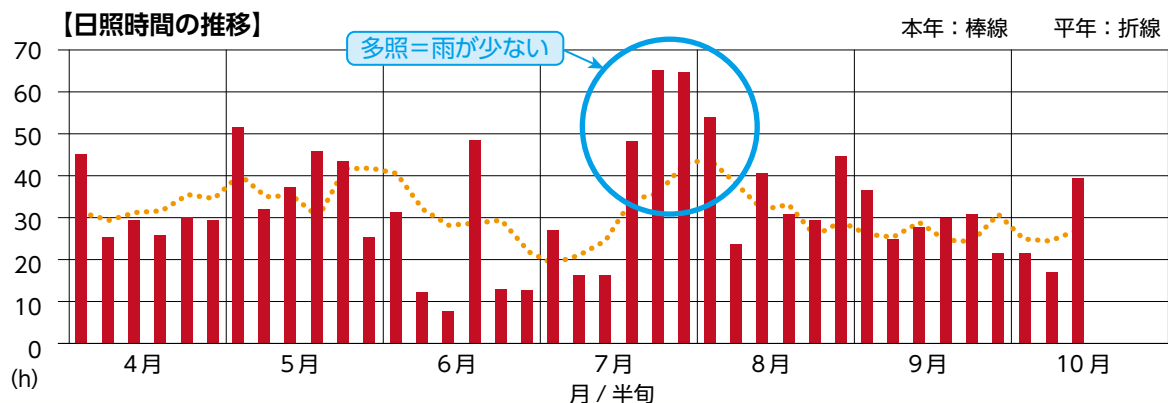


生育ステージ	概要
育苗期	育苗期間中の気温は、概ね平年並～やや高く、苗は順調に生育しました。
移植期～ 分けつ期	5月下旬から梅雨入りし、日照時間が少なく分けつの発生はやや遅れました。6月は日照時間が平年に比べ非常に少なく、気温も低い日が多かったため分けつが抑制されました。
幼穂形成期～ 出穂期	7月下旬から8月上旬にかけて非常に高い気温が続き、白未熟粒発生要因となりました。最高気温35℃以上の高温が受粉障害による不稔もみの増加にもつながりました。
登熟期～ 収穫期	早生品種では7月の出穂期以降、収穫期まで平年より高い気温で推移し、登熟日数は平年より早まりました。 高夜温による消耗が大きくなり、栄養凋落が進み、外観品質、収量の低下につながりました。 中生品種では収穫期まで平年より非常に高い気温で推移したため、登熟期に栄養凋落し、外観品質、収量の低下につながりました。

令和5年 稲作期間半旬別気象表 (虎姫アメダスより)



4月上・中旬：高温 / 5月下旬～6月中旬：低温 / 6月末～9月下旬：高温 (異常高温7月末～8月上旬)



5月下旬～6月下旬：寡照 / 7月上～中旬：やや寡照 7月中～8月上旬：多照 / 8月下旬～9月上旬：多照

良品質米の生産にむけては生育ステージごとの技術対策が必要となります。詳しくは令和6年産水稲・麦・大豆栽培の手引きをご確認ください。